

11月30日(水) 本年度第20回(通算 第2849回)

「財団100周年記念」夜間例会

担当/理事会・財団委員会 18時30分～釧路プリンスホテル

◆お客様と来訪ロータリアン

越後 和恵さん(ピアノ演奏)、三浦 文子さん(RC合同事務所)

◆メーキャップ

11/26 富樫 孝之君、平井 昌弘君、川村 真一君、北川 健二君、小林 裕幸君、坂入 信行君  
田野 竜之介君、仁木 久司君、本間 明美さん、森山 義文君、山岸 弘典君(以上11名 釧路北RAC)

◆出席報告【会員総数77名 免除6名 出席計算に用いた会員数77名】

本日の出席率	出席者名50名	メーキャップ 11名	出席率 79.2%
前々回の修正出席率	出席者名38名	メーキャップ 7名	出席率 59.2%

◆ニコニコ献金(今年度累計 495,000円)

- ・財団100周年おめでとうございます。宮下君、入会おめでとうございます ～富樫 孝之君
- ・高橋理事、迫田委員長、今日は宜しくお願い致します。  
宮下君入会おめでとうございます。てっちゃんお帰り ～平井 昌弘君
- ・ケーキありがとうございます ～伊藤 尚嗣君
- ・お久しぶりです ～石森 将敬君
- ・財団100周年おめでとうございます。迫田さん宜しく申し上げます ～小野寺 英夫君
- ・とってもきれいなお花ありがとうございました ～長内 信辰君
- ・お花届きました。ありがとうございます ～川村 真一君
- ・B1グランプリ行って参ります ～工藤 健司君
- ・結婚記念日のお花ありがとうございました ～小林 裕幸君、東海林 均君、日比 龍雄君
- ・哲ちゃんお帰りなさい ～坂入 信行君
- ・父の葬儀お世話になりました。そして今日の例会よろしく申し上げます ～迫田 武君
- ・四つのテスト宜しくお願い致します ～篠原 恒也君
- ・本日、担当例会です。よろしくお願い致します。 ～高橋 哲也君
- ・財団委員長よろしく申し上げます ～高橋 貢君、萩原 昭博君
- ・娘が2歳になりました ～中島 仁実君
- ・宮下さん入会おめでとう。てっちゃんお帰り ～中嶋 嘉昭君
- ・本日の例会よろしく申し上げます ～能登 信孝君

・財団100周年おめでとうございます ～安田 正二君



#### ◆会長挨拶《富樫会長》

皆さん御晩でございます。本日の記念すべき例会へ出席頂きましてありがとうございます。

まず、本日入会の宮下君、入会おめでとうございます。今日この財団100周年例会に入会という事でとてもメモリアルで嬉しく感じております。これから末永いお付き合いを宜しくお願いいたします。

そして前回の第8回、IDスポーツ大会、多くの会員の皆様の参加ありがとうございました。お陰様で参加者の皆さんが楽しく、そして元気な姿を見、ふれあえたことで本当に私達もこの事業の深さ、継続することの大事さを改めて感じたところであります。

また新聞にも出ておりましたが工藤君がこの土日に東京の地でB-1グランプリに参加するという事があります。「釧路ザンタレなんまら盛り揚げ隊」の隊長として出陣！仁木君、大澤君、川村君と共にこの釧路を大いにアピールし、ぜひ優勝してきてください。

今日は年度当初よりしつこく、アナウンスしておりました国際ロータリー財団、100周年の年であります。今月はロータリー財団月間の月でございます。高橋理事、迫田委員長が工夫を凝らした例会という事で大変楽しみにしております。

私の年度はこの100周年という重い使命を背負って、財団、米山、ポリオ、そして年末の歳末共同募金と金、金、金と本当に皆さんには無理なお願いばかりを繰り返してきて本当に恐縮な思いで一杯であります。今日の例会は感謝の気持ちも含めてアルコール例会になっております。少しお酒も入っていい気持ちになって優しい気持ちで更に財団寄付に理解をして頂けたらと思います。

本日は優しい気持ちで宜しくお願いいたします。



#### ◆幹事報告

口頭で5点

- ① 今週末より歳末助け合い募金活動を行います。かなり冷え込みが厳しいので温かい格好でいらして下さい。
- ② 第5回理事会議事録を入手出来るようにしております。
- ③ ロータリーの友12月号をパーソナルBOXに入れております。
- ④ 第1回家庭集会の報告書をパーソナルBOXへ入れております。

⑤ 最後に来月のロータリーレートは106円となっております。

回覧で6点

- ① 国際ロータリー第2500地区より、ライラセミナーの報告書が届いております。
- ② 釧路ロータリークラブ様より80周年記念式典のお礼状が届いております。
- ③ 豊富RC様より同じく50周年記念式典のお礼状が届いております。
- ④ ベイクラブ・西・南・東様より12月例会プログラムが届いております。
- ⑤ 厚岸RC様より10月例会の会報が届いております。
- ⑥ 国際ロータリー第2760地区より「第1回日本ライラセミナー」の開催のお知らせが届いております。



#### ◆委員会報告

親睦家族委員長より、「クリスマス家族忘年会」についてのお願いがありました。

#### ◆本日のプログラム「財団100周年記念」



迫田財団委員長からの趣旨説明



### 北川パスト会長による講演

皆様こんばんは。ロータリー財団 100 周年記念例会で、お話できる事をととても嬉しく思っています。分かりにくい所もあると思いますが 15 分間、最後まで耳を傾けて下さい。また、今日入会した宮下君を始め、何人かの会員の方に質問しながら進めさせていただきます。

#### 最初にロータリー財団の誕生について

ロータリークラブが設立された 12 年後 1917 年、今から丁度 100 年前アーチ・クランプ国際ロータリー会長が「全世界的な規模で慈善・教育面で良いことをするために、基金をつくろう」と、提案したことから始まりました。最初の寄付金は、26.5 ドル。最初からロータリー財団が創立された訳ではなく、11 年後の 1928 年国際大会でロータリー財団に承認されました。最初の事業は翌年、1929 年 500 ドル、今の金額ですと 500 万円程を、国際障害者教会へ寄贈しました。12 年後に初めて事業が行われた経過から見て、当初は、寄付する会員が多くなかった事が伺えます。それを変えたのは、30 年後、1947 年（昭和 22 年）ロータリー創立者、ポールハリスが亡くなった事によって、多くのロータリアンから、多額の寄付金が寄せられたことが、ロータリー財団の発展の礎となりました。ここで質問します。いま、ロータリアンと言いましたがその通りです。次にロータリークラブが誕生した初期の時代とロータリー財団が誕生した時代背景に密接な関係がありますので、お話しします。皆様ご存じの通り、1905 年ポールハリスがロータリークラブを、創立した時代のアメリカは、いかにして利潤を独占しようかと、弱肉強食に明け暮れた時代でした。特に西部進出の交通の要であったシカゴは、成功を夢見る人達が集まり、法さえ犯さなければ、金儲けしたものが成功者として、もてはやされた時代でした。労働者への搾取、顧客をごまかしたりするのは当たり前、騙すより、騙される方が悪いと思われていました。そんな中、語り合える仲間を求めてポールハリスはロータリークラブを作りました。当初は、親睦とお互いの商売を助ける、物質的相互扶助の集まりでした。例会では、会員同士の取引内容の機密保持が徹底されていました。当時、シカゴから、アメリカ西海岸への取引は、何が送られてくるのか不安の取引でしたが、ロータリークラブ、会員同士の取引では、違法な取引がありませんでした。違法な取引を行うと、除名され、その後の商売は出来なくなります。この相互扶助は、多くのロータリークラブ、加入企業に、大きな収益をもたらしました。ロータリークラブは一業種 1 名の入会しか認めていませんので、入会できなかった経営者は、このシステムを使い、同業者同士が集まった職業クラブが雨後の、竹の子のように乱立しました。その後、激減しましたが出版業界の職業クラブは、いまでも残っています。

そんな中、1908 年、アーサー・シェルドンが入会してきました。彼はいち早く経営学を取り入れた経営者でした。ロータリアン同士で独占していた相互扶助取引を、会員以外にも拡大し、今迄行ってきた物質的相互扶助から決別する提案をしました。そして職業奉仕理念を取り入れました。そのフレーズは「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」。「He profits most who Serves best」ですね この職業奉仕理念を取り入れた事によってロータリーは、大きな発展をとげました。シェルドンの職業奉仕理念を要約すると、顧客を大切にする事でリーダーが増え、正しい商取引を行うことで利潤が増え、労働環境を良くすることで労働効率向上に繋がる理念で

した。職業奉仕を取り入れたロータリークラブ、会員企業が安定期に入った、1917年、時を同じくしてライオンズクラブが、相互扶助を目的にせず、誠実をモットーに、自分たちよりも不幸な人達を援助する目的で、創設されました。その事も大きく要因していると思いますが、ロータリークラブからも社会奉仕活動の必要性の声が上がリ、先ほど述べた通りアーチ・クランフ会長からの基金の提案がありました。更に、ロータリーは1923年にフランク・コリンズの人道的奉仕理念「超我の奉仕」「Service above self」ですね。超我の奉仕が奉仕哲学として国際大会で採択されました。「超我の奉仕」を要約すると、他人の為に尽くすという意味です。それを機会に国際奉仕・社会奉仕に対しての声は、より高くなってきました。先ほど述べた通り、ポールハリスが亡くなってからは、ロータリー財団寄付額の増加と共に、人道的奉仕活動が脚光をあびるようになってきました。



ここでロータリー財団の誕生の経緯を少し整理します。

ロータリークラブが誕生した当時は、親睦、そしてお互いの取引を重視した物質的相互扶助から始まり、アーサー・シェルドンの入会によって、職業奉仕理念が確立されました。企業が安定期に入ると、人道的活動奉仕理念が台頭して、ロータリー財団が誕生しました。そして職業奉仕理念と肩を並べるようになりました。現在、日本では、職業奉仕を重視していますが、国際ロータリーでは、職業奉仕には目もくれず人道的奉仕活動に傾倒しています。これがロータリー財団のおおまかな歴史的経過と現状です。

続いてロータリー財団の財源と最大事業について

国際ロータリー「私達のロータリークラブの上部組織」は、私達が会費で納めている人頭分担金（上期27ドル、下期27ドル、併せて54ドル）今、世界中でのロータリー会員は120万人いますので、54ドルを掛けると、年間約70億円で運営しています。只、ロータリー財団は、それとは別組織になっています。

ロータリー財団は、私達会員の寄付金で事業を行っています。大きく分けると、（年次基金、恒久基金、ポリオプラス基金、その他の基金）4つの種類に分類されています。昨年度のロータリー財団に対する寄付総額は日本円にして約220億円、只、この中には、ビル・ゲイツ財団からの、ポリオへの寄付金が70億円含まれています。ゲイツ財団は5年前、国際ロータリーが今後5年間で、毎年35億円をポリオに拠出するのであれば、ビル・ゲイツ財団は国際ロータリーに倍額の毎年70億円拠出する、締結をかわしました。

財団への昨年度の寄付金最大国は、アメリカで日本円にして70億円。2番目がインド15億円、日本は3番目で15億円、インドとの差額は1,000万円程です。4番目が韓国の順です。一昨年度までは、日本が2番目、韓国が3番目の順位が続いていました。尚、ロータリークラブ会員からの寄付金のほぼ80%は、年次寄付への基金です。次に、ロータリー財団の最大の事業は、ポリオ撲滅活動です。ポリオは皆様ご存じの通り、過去に日本でも発症



例の多かった小児麻痺です。昨年度は、30 億円（ゲイツ財団寄付金と合わせると 100 億円）過去からの累計額は、1,600 億円を拠出しています。また、お金ばかりではなくポリオ接種のための人道的支援も行っています。1988 年今から 29 年前、世界で 35 万件の公式発症例があったポリオは、本年 10 月 20 日現在では、パキスタン・アフガニスタン・ナイジェリアの 3 ヶ国で 27 症例が確認されています。まだ多くの子供達への接種が残っています。各テーブルにあるポリオ募金に 100 円入れてもらうと、2 人の子供がポリオ接種を受けることができます。ご協力をお願いします。また、毎例会、募金箱に拠出して頂いています。石井会員・中嶋会員・小野寺会員を始め多くの会員に感謝申し上げます。

続いてロータリー財団へ寄付した時の認証（称号）について

最初に 1,000 ドルをロータリー財団へ寄付すると、ポールハリスフェローの称号が与えられます。2 回目 1,000 ドルを寄付するとマルチプル・ポールハリスフェローの称号が、累計寄付金が 10,000 ドル（今は 1 ドル約 110 円ですので、それで計算しますと日本円で約 110 万円）に達するとメジャドナーの称号が、当クラブの現役会員では、足立パストがメジャドナーの称号を得ています。メジャドナーは 10 万ドルまで（日本円で 11,000 万円まで）4 レベルの段階があります。その後累計額が 25 万ドル（日本円で 27,500,000 円）でアーチ・クランフ・ソサエティの称号が与えられます。アーチ・クランフ・ソサエティは 6 段階に分かれて、最後の 6 段階での寄付金総額は、1,000 万ドル、何と日本円で 11 億円になります。

ちなみに、4 年前日本で 3 人目の国際ロータリー会長に就任した田中作次さんは、アーチ・クランフ・ソサエティのレベル 3 段階で約 1 億円以上の累計寄付をしていると聞いています。

最後になりますが、ロータリー財団でしている重点事業があります。平和・疾病・水と衛生・母子の健康・教育・地域発展の 6 分野に対して、3 万ドル（330 万円）以上の事業を行うとロータリー財団からの支援を受けられます。また、私達が寄付した年次寄付金の約 50%が 3 年後に地区に返還されます。それを使った活動・事業もできます。寄付するばかりではなく、今後ロータリー財団を有効に使われることを願っています。

ロータリー財団を 100 年間支えて頂いた各国の先人・会員の方、そして財団への寄付金を 58 年間継続しれくれた、当釧路北ロータリークラブの先人・先輩達に敬意を表して終わります。ご清聴ありがとうございます。